

# 論壇

## 団塊の世代、75歳超え

医療のデータを見ると、75歳を超えたあたりから医療費が大幅に上昇する傾向がある。もちろん個人差があるのでもっと若くても医療費がかかっている人もいれば、75歳を超えても病院にかかる必要がないという人もいる。ただ、人口全体で数字を並べて見ると、75歳の壁は大きい。そこを越えると、病院や医院にかかる人が増え、薬代も含めて医療費が増えていく。

日本の医療制度を見ると、2020年代に入ると団塊の世代の人たちが徐々に75歳を超え始める。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

25年には団塊の人の全てが75歳を超えることになる。日本の医療費が大幅に増えていくことが懸念される。

そうは言っても、25年は8年後の話だ。そういうこともあつてか、高齢化と医療の問題は、一般論として関心はあつても、あまり真剣に考えない人が多いようだ。

## 8年後に待つ医療費の壁

すでに高齢化しているではないか。それでも別に大きな問題は起きていない。何とかなる。そう考

えている人も結構多いようだ。残念ながら、そう都合よくはいかない。これが多くの専門家の意見だ。今のやり方でもう数年は何とか格好がつくかもしれない。し

かし、22年あたりから、医療費はこれまでとは比較ができないようなスピードで増え始める。それだけ多くの人が病院にかかり、薬を処方してもらうだろう。それが医療費の増大となる。

医療費の増大を放置していたら、医療財政が回らなくなる。財政赤字がさらに膨らむことにな

要するに、医療や介護による財政の大きな壁が8年後あたりに待っているのだ。本来であれば、必要な改革を今から始めていなくてはいけなのだが、足元での改革のスピードは非常に遅い。大胆な改革は大きな痛みを伴うものであり、そのような改革を実行するのが難しいのだ。

## 改革という苦い薬必要

日本の現状を見ると、なぜこんな改革もできないのか、不思議になることが多い。薬局で900円ぐらいで購入できる湿布薬も、処方箋を出してもらつと数十円の個人負担で手に入れることができず、なぜ湿布薬まで保険財政でカバーしなくてはいけないのかよくわからない。

病院や医院に見てもらつ時、まず500円程度のワンコインを払うことを要求したらどうだろうか。そうすれば過剰に病院に行く人も減るだろう。医療費削減にはそれなりの効果があるということ、財政審議会などでもその導入を求めている。ワンコインであるので負担はそれほど大きくない。それでも、こうした制度改革は政治的に反対する人たちが多く、なかなか実現しない。

改革に反対する人たちの話を聞いてみると、改革などしなくても日本の医療は大丈夫だと言わんばかりである。残念ながら団塊の世代が75歳を超える頃の状況は現在とは様変わりなのである。日本の医療を守るためにも、改革という苦い薬を飲む勇気が必要だ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。